

# 西濃学園の不登校支援 ～社会的自立を目指して～

学園長 北浦茂

# < 経歴など自己紹介 >

## 略歴

昭和23年5月27日 石川県金沢市に生まれる

昭和42年	金沢工業高等専門学校 修了
昭和43年	日産サニー石川販売KK 勤務
昭和48年	名城大学法学部 卒業
	学校法人安城学園 城西高等学校 勤務
平成 3年	不登校生支援のボランティア団体を結成
平成15年	宿泊型フリースクール「坂内新生塾」設立
平成16年	NPO法人坂内新生学園 設立
平成17年	NPO法人西濃学園 改称
平成21年	学校法人西濃学園 西濃学園中学校 設立
令和 4年	学校法人西濃学園 西濃学園高等学校 設立

## 表彰

平成28年	第48回中日教育賞
令和元年	第53回社会貢献者表彰
令和 3年	岐阜県私立学校教育功労者表彰(岐阜県知事賞)
令和 4年	教育者表彰(文部科学大臣表彰)



北浦 茂  
(学校法人西濃学園 学園長)





様々な事情から不登校になった子どもたちを、問題児として捉えるのではなく、大切な存在として個々の特性に合わせた教育が必要と考え、岐阜県内で13年間に亘り、ボランティアで不登校児童や生徒・親の支援を行っていた。その後、宿泊型フリースクールやNPOとして支援を続け、2008年に岐阜県内の廃校となった小中学校校舎を借り受けて学校法人「西濃学園中学校」を開校。不登校のための技能連携高校の教育を始めた。

この種の学校で寄宿制の正規の学校は全国でも数少ない。大自然の中で愛情あふれる教師や臨床心理士の指導のもと、学習の遅れや喜びを取り戻しながら、地域の清掃や草刈り、植樹などの環境ボランティアを活発に行い、祭りや運動会などを地域と共同開催するなど、多くの場面で地域住民と交流している。こうした交流により、子どもたちが人間関係の構築や共同・公共の意識を学ぶ一方で、高齢化と人口減少の進む地域にも若者の息吹を吹き込み共存し、互いに助け合う事で村づくりや人づくりをおこなっている。



①なぜ教員を辞めてまで不登校児童生徒の支援を開始し、特例校の認定を受けたのか。

その経験から、現在の学校教育の限界について。



## ②不登校のメカニズムと増加の要因

- ・ 不登校の時代的变化として、  
思春期危機の表現としての不登校⇒発達障害的な特性を持っている生徒の学校不適応⇒現在の急激な増加
- ・ 多様性を認め合おうという時代の中で一人一人の自己表現が自由に  
発達の特性も表れやすくなっている  
個人の自己表現と学校という集団の枠組みとの摩擦  
個人が学校(集団)に合わせる、という価値観の衰退  
家庭で自分のペースで好きなことをして過ごす以外はストレスフルと  
いう子どもたちの増加
- ➡時代、あるいは学校が変わらないと増加し続ける？  
規律が守られ安全かつ生産性の高い日本の将来へ不安？

# 子どもたちが成長できる環境の多様性の確保

多様性や自己表現の自由は尊重されるべき成熟社会の価値観

➡学校が変化すること

**不登校特例校**

フリースクール など

そこでは

- ①安心感・・・子どもたちが居場所感を感じるため、承認欲求など個人のニーズにきめ細やかに対応できる少人数制や専門家の配置
- ②成長支援・・・社会性や学習の機会確保など成長支援プログラムが必須

## ②不登校特例校が増えない理由

認可の厳しさ(削減した時間や教科内容の補い方について、書類作成の難しさ)

設立へのサポートがほぼない(予算など)

設立後のサポート体制がない

➡不登校特例校同士の協議会設立や全国の集いに向けて準備中  
文部科学省のさらなる理解と協力を

# 各不登校特例校の実践力強化と公開の機会を

例えば、西濃学園では、卒業後の生徒を追跡調査し、NEET群と非NEET群で、卒業時に身につけていた10のスキルについて分析を行った結果、社会参加を助けるためには、基礎学力以上に社会情動スキル(非認知的スキル)が求められることがわかった。

その中でも、中高全体では、「現実検討のスキル」「生活管理のスキル」「協働のスキル」「責任のスキル」が重要であり、発達段階別には、中学において「環境調整の要因」高校では「精神安定のスキル」が重要であるとわかった。

また、それぞれのスキルにおいて社会的自立に必要な指標も明らかとなり、個別支援に利用。



A君 個別支援シート 高1⇒高3

高校 氏名 **A君**

個別支援計画シート

特性・性格特徴  ASD 特性  ADHD 特性  LD 特性(②に詳細記載)  愛着障害傾向

高1時 高3時

① 生活管理スキル(投薬など健康、生活リズム、金銭・貴重品・衛生)	② 基礎学力のスキル(5教科の平均)	③ 問題解決のスキル(目標設定、計画、注意・集中・欲求コントロールと解決)	④ 協働のスキル(関係作り、関係維持、協力、リーダーシップ)	⑤ 責任のスキル(忍耐、勤勉性、役割遂行)
1 手助けあっても全てできない	1 (評定なし) 4.67	<input checked="" type="checkbox"/> 目標設定できない	<input checked="" type="checkbox"/> 関係を作れない	1 責任取らない美学
2 手助けあっても2つできない		2 目標計画が不适当	2 関係維持ができない	<input checked="" type="checkbox"/> 責任からの逃避
3 手助けあっても1つできない		<input checked="" type="checkbox"/> 目標計画妥当だがコントロール難	3 苦手な人とはできない	3 忍耐できず、自己正当化
4 手助けあれば全てできる		4 効果的な実行まであと一歩	<input checked="" type="checkbox"/> 苦手な人も協力可、リーダーシップ不可	<input checked="" type="checkbox"/> 引き受けるがやり遂げることができない
<input checked="" type="checkbox"/> 手助けなくても全てできる		5 効果的な解決可	5 リーダーシップ可	5 責任遂行

⑥ 能動のスキル(意欲や向上心、自主性や積極性の適切な発揮)	⑦ 規律のスキル(ルール、道徳性、公共性)	⑧ 精神安定のスキル(他者も自己も尊重、感情コントロール、ストレスへの対処)	⑨ 現実検討のスキル(願望と現実のバランスと現実の受け入れ)	⑩ 環境調整(生徒の能力や特性と次の進路先のマッチングへの安心度)
1 無気力、指示あっても不可	1 反秩序的	1 自殺未遂レベルの不安定	<input checked="" type="checkbox"/> 自己愛世界	1 進路先を見つけられなかった
<input checked="" type="checkbox"/> 指示があればそれだけ可	2 自己中心的なルール観	2 周囲を巻き込む不安定	2 現実に気づくが現実拒否	<input checked="" type="checkbox"/> 本人の適性より周囲の意向
3 限定意欲	<input checked="" type="checkbox"/> 他律的な理由でルール遵守	<input checked="" type="checkbox"/> 受診まではいかないが不安定	3 悩みつつ現実へ	<input checked="" type="checkbox"/> 不安と安心五分五分
<input checked="" type="checkbox"/> 自主性あるが壁には萎える	<input checked="" type="checkbox"/> 罪悪感や理想しかし形式的	4 ストレス下では不安定	<input checked="" type="checkbox"/> 受け入れるが希望持てない	4 安心やや大フォロー必要
5 困難あっても乗り越える	5 ルールの柔軟な適用	<input checked="" type="checkbox"/> タフネスとレジリエンス	5 希望を持って現実受け入れ	5 フォローなくても安心

個別支援目標 1 **自己表現できる安心感** 2 **モチベーションの応援** 3 **ストレスコーピングの指導(SST)**  
 その他 **生徒会の経験** **大学進学に向けて** **大学不合格という結果の受け止め**

ご清聴ありがとうございました。

# 学校法人西濃学園

参考資料



# メディアでの紹介

2022年4月1日(金曜日)  
読売新聞

## 不登校向け高校 揖斐川に



山村地域にある西濃学園高校の校舎

### 西濃学園

不登校の生徒に対応した教育を行う全日制の不登校特例校「西濃学園高校」が、揖斐川町で6日に開校する。高校の不登校特例校は中部地方で初めて、全国から入学でき、山村で寮生活をしながら学べるのが特徴で、運営する学校法人西濃学園は「新たな環境で、自立して生きる力を養いたい」としている。

(野村順)

## 山村で寮生活 ■OBが講師に

同学園は2009年、同町の旧藤橋村地区に不登校の生徒向けの西濃学園中学校を開校。17年には、県内で初めて、国から不登校特例校に指定された。同じ頃、高校卒業資格が得られる通信制の西濃学園久瀬校を開校し、旧久瀬村地区に移転。生徒は中学校と同じ寮から通い、全日制

不登校特例校 不登校の児童生徒の事情に応じた授業時間や学習内容を柔軟に編成できる。2017年2月施行の教育機会確保法で国や自治体に整備が求められており、文部科学相が指定する。文科省によると、全国では4月1日時点で、教育内容に関する特例校が公立・私立の21小中高校、通信の導入など指導方法の特例校が8高校ある。



高校運営の抱負を語る北浦さん(揖斐川町東橋山の西濃学園で)

非常勤講師として高校の運営に携わるOBの土井田さん



に近かったが、商業科の「技能連携校」だったため、学園としての高校卒業認定はできず、生徒が連携元の高校にも入学しなければならぬ事情もあった。このため不登校特例校への移行に向け準備を進め、昨年末、県から設置が認可された。愛知県内の私立高で生徒指導に携わり、前身のフリースクール時代から不登校生徒の面倒を見てきた学園長の北浦茂さん(73)は「不登校の生徒は中高での継続的なケアが必要」と開校の意義を語り、「西濃学園の生徒に別の学校の卒業証書を出すのは寂しくもあった」と振り返る。

新設校の定員は1学年25人で、4月からは全生徒30人でスタートする予定という。うしても登校できないという事情にも配慮し、必修の36単位はリポートやオンライン授業などでも取得できる。また、「学習サポーター」と呼ばれる専任教員1人が学習状況を常にフォローし、保護者とも密に連絡を取り合う。中学校の寮生活でトラブルが起きた際は、教員には、生徒の話をよく聞いたうえで、その言動の意味を考えさせるなど、きめ細かく対応しているという。こうした取り組みが生徒の安心感や学校・教員への信頼につながっているといい、北浦さんは「願点に立ち返り、生きた学びが得られるようにしたい」と話す。学園のOBも、数学の教員やスクールカウンセラーなどとして、3人が学校運営に携わる予定だ。その一人、土井田一将さん(55)は実家の建設会社で働きながら、非常勤講師として美術の特別授業を行う。小中高でいじめに遭い、高2の時に北浦さんのフリースクールに通った土井田さん。北浦さんが真剣に寄り添ってくれたことで次の一歩を踏み出したといい、「物事を別の角度から眺めることの大切さを教わった。そのことを生徒に伝えていきたい」と感銘を見せている。



# メディアでの紹介

2022年4月7日(木曜日)  
中日新聞

中部初の「不登校特例」高校

**西濃学園高が開校**

生徒代表「絆を結んでいこう」

揖斐郡揖斐川町西津波の  
西濃学園高校の開校式が6  
日、同町谷汲名札の谷汲サ  
ンサンホールであり、出席  
した生徒らが決意を新たに



同校は、不登校の子とも  
たちの自立を支援する同町  
の学校法人「西濃学園」が  
今春開設。中部地域では初

決意を述べる関谷優希さん＝揖斐郡揖  
斐川町谷汲名札、谷汲サンサンホール

という文部科学相が指定す  
る特別な教育課程を編成で  
きる「不登校特例校」の全  
日制普通科高校で、1、3  
年生の31人は基本的に町内  
で寮生活をしながら学ぶ。  
学園が運営する中学校と  
高校の入学式と合わせて行  
った。北浦茂学園長は「日  
本で一番心温まる学校を目  
指し、職員一丸となって生  
徒たちの真の自立を果たす  
教育実践を進めていく」と  
あいさつした。

生徒を代表して高校1年  
の関谷優希さん(15)が「学  
校へ足が運ばなかったとい  
う同じ過去を経験した私た  
ちは今日から手を取り合  
い、互いを思いやって絆を  
結んでいこう」と力強く呼  
びかけた。(柴田洋希)

2022年4月7日(木曜日)  
岐阜新聞

互い思い合って絆結ぼう

全日制不登校特例校 西濃学園高の開校式

不登校に悩む生徒たちを  
受け入れてきた揖斐川町の  
私立「西濃学園」の全日制  
不登校特例校「西濃学園高  
校」の開校式が6日、揖斐  
川町谷汲名札の町谷汲サン  
サンホールであった。高校  
の不登校特例校は中部六県  
では初めてで、新入生計十  
四人が新たな一歩を踏み出  
した。

高校の太田勝也校長が  
「自然や歴史などの資源を  
新入生を代表して話す  
関谷さん＝揖斐川町谷  
汲サンサンホールで



受け継ぎ地域力も借りな  
がら、人の弱さに寄り添え  
る生きる力を育む高校とし  
て発展することを期待す  
る」と開校宣言した。

北浦茂学園長は「一人一  
人が自分の力で飯が食える  
人になることを願い、職員  
が一丸になり生徒たちの真  
の自立を果たすための教育  
を実践する。感謝の気持ち

を生徒とともに胸に刻み歩  
む」とあいさつ。高校の新  
入生を代表して関谷優希さ  
ん(15)は「今日から手を取  
り合い互いを思い合って、  
私たちがだからこそのなげ  
絆を結ぼう」と語った。

併せて中学校の入学式も  
開かれ、四人が入学。県議  
や岡部栄一町長、保護者ら  
計百五十人が出席した。

西濃学園は、二〇〇八年  
に通信制の星塚国際高校  
(北海道芦別市)の技能連  
携校として高校、翌年に中  
学校が開校。生徒は寮生活  
をしながら自立に向けて学  
ぶ。(市川勲太郎)

# メディアでの紹介

2022年4月12日(火曜日)  
中日新聞

## 西濃学園高 開校記念

掛壁川町西津設の全日制の不登校特例校「西濃学園高校」で九日夜、開校を記念した式典が開かれた。切り絵やランタンで校内を照らし、幻想的な空間を大勢の人たちが楽しんだ。  
(成田はな)

# 校舎いっぱい サクラが満開

愛知県在住の切り絵作家、酒井敦美さんが虹や学園の開校にちなんだ出発などをテーマにした切り絵作品を用意した。校舎にサクラの切り絵を投影し、五本の作品で校内や周辺を照らした。西濃学園の中学生ら計二百六十個のランタンが校庭や校舎内の

校舎に投影されたサクラの切り絵。いずれも掛壁川町西津設の西濃学園高で

## 酒井さんの切り絵投影

通路を彩った。教室では、寮生活の紹介動画も流した。  
イベントには、近隣の住民や学園の卒業生ら二百人以上が訪れた。校舎を写真撮影したり、興味深そうに眺めたりしていた。  
開校を機に地元の人に学校を知ってもらおうとイベントを企画。クラウドファンディング(CF)で募った資金を活用した。学園の担当者は「生徒と地域の人々が一緒につくり上げるイベントになった。たくさんの人に来てもらってうれしい」と話した。

①校舎の入り口で出迎える虹や四季をテーマにした作品  
②校舎内を照らす切り絵作品とCFの返礼品として用意したランタン







# 西濃学園とは

—— どんな学校なの？ ——

2009年に「西濃学園中学校」が、2022年に「西濃学園高等学校」が揖斐川町に開校しました。学校生活に不安を抱える生徒も安心して通える学校です。自然豊かな環境の中でゆったりとした雰囲気です。学校生活が送られています。

また寮を完備している  
ので、全国から入学  
することができます。





# 特例校オリジナル授業

## Collaborate コラボレート

授業という枠にとらわれずに、様々な体験学習や集団ゲームに取り組んでいます。

伝統行事やボランティア活動、ものづくり、外部講師を招いての講演会など、色々な企画を通して子ども達の社会性を育む教育を行っています。



## Life planning ライフプランニング

学校生活は人生の基盤を作る場であると考え、卒業後の社会生活を見据え、コミュニケーション能力のアップやセルフコントロール、生活習慣の作り方を学んでいます。

自分の力で「人生を生き切る」ことを目標にしています。



## Recovery リカバリー

学校に行けなかった期間や、勉強できなかった期間は人によって違います。同じ学年でも能力に差が生じるため、「自分にはできない」と悩んでしまいがちです。学んだことで“自分がどれだけ成長しているのか”というところに視点を置き、個々の能力に応じた勉強の時間を設けています。



# TIME SCHEDULE

## ● 西濃学園高校 学校生活



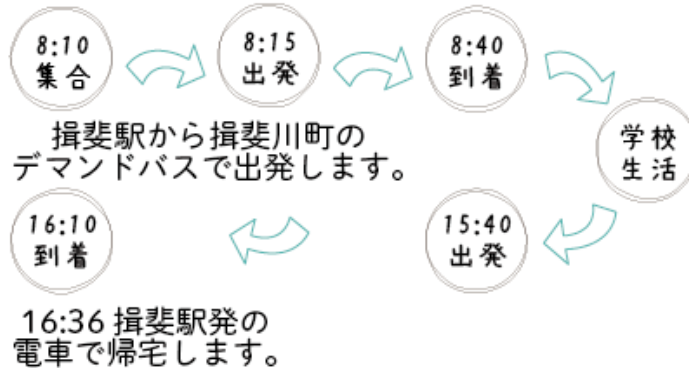
### POINT!

西濃学園では、心のケアをいつでも行えるようにしています。

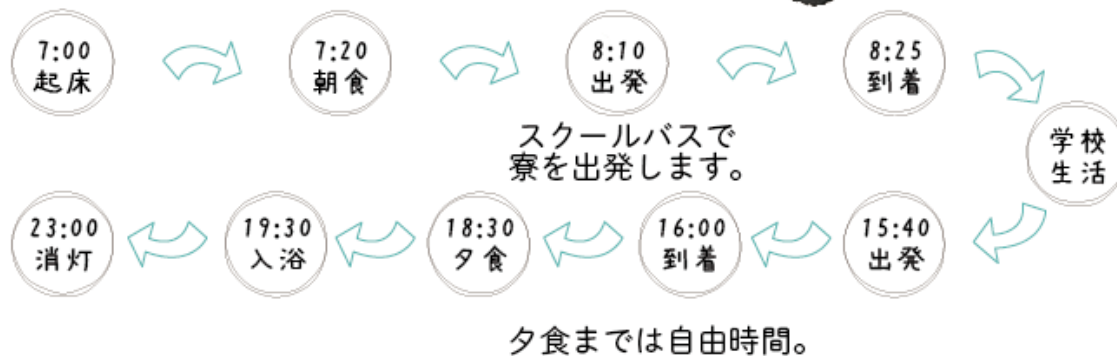
全生徒に対してカウンセリングを定期的に行い、自身の抱える問題に対する気づきを得たり理解を深めることができます。



## ● 通学生の1日



## ● 寮生の1日





# TIME SCHEDULE

## ● 西濃学園中学校 学校生活



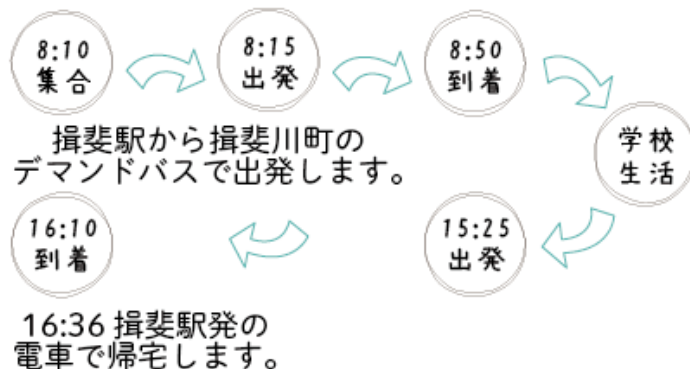
### POINT!

2010年度から、藤橋の文化や生き方を学ぶ、「地域学習」の時間を設けてきました。

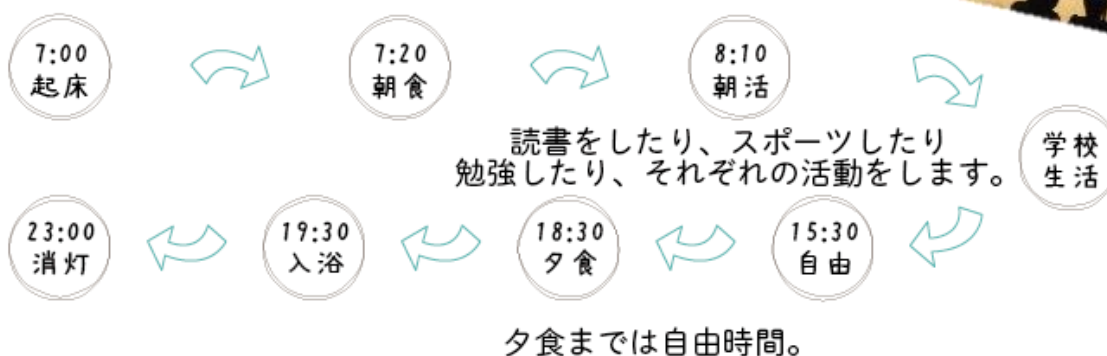
地域の文化や生き方に触れ、社会体験を多く積むことにより、地域社会の成り立ちを学び、生徒の世界を広げ、社会に出た時に生きやすくなるようにこういった活動の時間を多く設けています。



## ● 通学生の1日



## ● 寮生の1日



check!

## 男子寮の部屋を紹介

一つの教室を4つに区切っています。各部屋には、ベッドと机があります。

4人部屋ですが、仕切りがあるので、プライベート空間が保たれます。

談話室でみんなと遊んだり、自室でゆっくり過ごしたり、それぞれの時間を過ごしています。





# 夏山登山

学園が最も重視している夏山登山は2019年で10周年を迎えました。この登山行事は子ども達の成長にとって、今までの生活や通常の学校生活では考えられない極めて大きな影響を与えていると考えています。実施後に子ども達が「本当に素晴らしかった」と口を揃えて言うのを聞くと、「やってよかった」と思えるのです。

登山後の生徒達は、登山前よりも明確な目標を持って、部活動や勉強に励んでいます。命がけの登山は、生徒達に「生きる」意義を教えてくださいます。



ベースキャンプ「徳澤園」





# 夏山登山



槍ヶ岳 標高 3,180m →



涸沢 標高 2,309m ↑



蝶ヶ岳 標高 2,677m ↑



# 地域と共に生きる

西濃学園のある藤橋地区は、豊かな自然に恵まれ、人が助け合い支え合うことを当然とし、そのような関係の中に人としての喜びがあるという価値観がいたるところに生きています。そんな藤橋の風土に包まれ地域の方々との触れ合いを大切に、学校だけでなく地域と共に教育していくことで、肯定的な自己の存在感を感じることができ、人としての土台を形成することができるようになります。

一方、少子高齢化・過疎化する藤橋地区は、西濃学園との親密な関係性によって行事や伝統の継承が可能となりました。つまり、生徒との関わりが、藤橋地域の方々の活力につながり、その活力が村の活力へと繋がっています。このように学校と地域が互いに助け合い、補い合うことで、両者の解決したい問題に希望を見いだすことができます。



# 生徒や保護者の声



## 西濃学園で過ごしてよかったことは？

自分のペースに合わせて進歩できたってことと、仲間がいて、緩い雰囲気だけど、許してくれるだけじゃなくて、叱るところは叱るし、仲間とケンカすることもありましたけど、ぶつからないと成長できなかったと思うんで、そういうところですかね、やっぱり。

例えば先生に叱られたり、先生にやったことを褒められたりとか、友達作って、友達と仲良くして、一緒に出かけて、ケンカして、みたいなこと。

自分に足りてなかった、してこなかった経験を、ちょっとずつ階段を上がっていくように、一歩ずつ踏ませてもらえるっていうのがここに来てよかったことだと思いますね。はい。



## 自分が成長できたと思うところは？

頑張ったってしょうがない、頑張っても自分はダメなんだって意識があったんですけど、でも、自分のペースで考えて、少しでもできたんだっていうふうに思えるようになったっていうことと、人には人のペースがあって、求めていることとその人にできることが違って、その人のペースで、できるようになるんだってことが分かったこと。

自分のできることとできないことが分かって、他人を許せるようになって、自分も許せるようになった、っていうところが大事なところかなと思います。

## 成長できたきっかけなどは？

特別ぶつかる相手がいたんですよ、やっぱり。一人。ものすごくぶつかって、ケンカしてっていう相手がいたんですけど、でも、ケンカをしないときもあって。そういう時はすごく仲が良くて、気が合うんですよ。だから、ものすごく仲が良くて趣味が合う相手でもケンカすることもあって。で、その時は相手を許せないって思うんですけど、でもケンカが終わるとあいついいやつだなって思うことがあって。

人には人のやり方というか、歩幅があって、自分にも自分の歩幅があって、やり方がある。自分の足りないところ、足りてるところ、相手の足りないところ、足りてるところっていうのを考えて、自分にできることをやって、相手にできることに合わせるっていうことが考えることができるようになったところが大きなところかなって思っています。

ぶつかる相手がいて、叱ってくれる相手がいて、落ち込んだら励ましてもらえるし、仲良くなれる相手もいて、という。なんか、プラスだけじゃなくてマイナスだけじゃないっていうのが大事なんだなと思います。ありがとうございました。



## 西濃学園に入学を決めた理由は？

ここに来た時に、最初に暑くて倒れてしまったんですよね。でも、寝ててもいいよって言ってもらって、理不尽に頑張らされないでいんだなって。そこはなんかすごくほっとしたみたいで、そこがよかったなって。

## 子どもはどう成長しましたか？

こうって思ったら絶対に人の言うこと聞かなかったんですよ。いや違うよ、こう思ってみたらって言っても全然聞かない。あいつのことは絶対に許さん！とか、そういう感じだったんですけど、人って表面だけとか、一個部分だけ嫌だったらそれで全部じゃなくて、いろんな面があるなっていう、そういうふうになんか人と付き合えるようになったなって思います。折り合いがつくっていうのかな。自分はこう、絶対こうしたいけど、まあでもあいつもこうしたいんやなっていうのが、ちょうど妥協できるところを探るっていうか。ちょっと苦手やけど一緒には居れるとか、そんな感じになってきたなって思います。

最初はすごく周りに対して不信感が、学校行けなくなった時は特に、みんな僕のこといじめるんだ、みたいなことを言ってたこともあるんですけど。本当に、周りの人と一緒になんかするとか、みんなを信用するっていう感じがすごく出てきて、そこが変わったとこだなって思って、そういうふうに変われるんだなってびっくりしたところです。

## 親としての変化は？

この子と一生、どう付き合っていこうかしらって思ってたんですけど、やっぱり自分はお母さんとして、すごい頑張ってる面倒見てやってる、やってるっていったらなんですけど、ていう気持ちはあって。勉強だって一緒についてやってるし、学校と話し合ったりとかいろいろしてたんですけど、結局子どもが本当に心で欲しいことが何かは分かってなかったなって、後で思いました。

自信が持てるようになりたいっていうことかな、自分が好きになりたいって。それは本当にいろんな人と付き合ってもらって、家族じゃない人と、先生とか、他の生徒さんと付き合ってもらって、杉ちゃんいいところあるじゃない、みたいに思ってもらえたのがやっぱり良かったのかな。

## 西濃学園の魅力とは？

一緒に生活していて、ほぼ同じメンバーでずっと、少人数でいってるからそうなったのかなって思うんですけど、人と深く付き合えたかなって、濃い人間関係ができたかなって。そこはすごくよかったなって思っています。社会に出たらやっぱり自分が自分が、でだけじゃやっぱり叩き潰されるところがあるので、本当に周りの人とうまくやっていける、周りの人のいいところ悪いところ見て、うまく付き合っていけるようになるっていうところが本当にいいところだなって思っています。そこはやっぱり深く付き合ってくださった先生のおかげやなって思ってます。



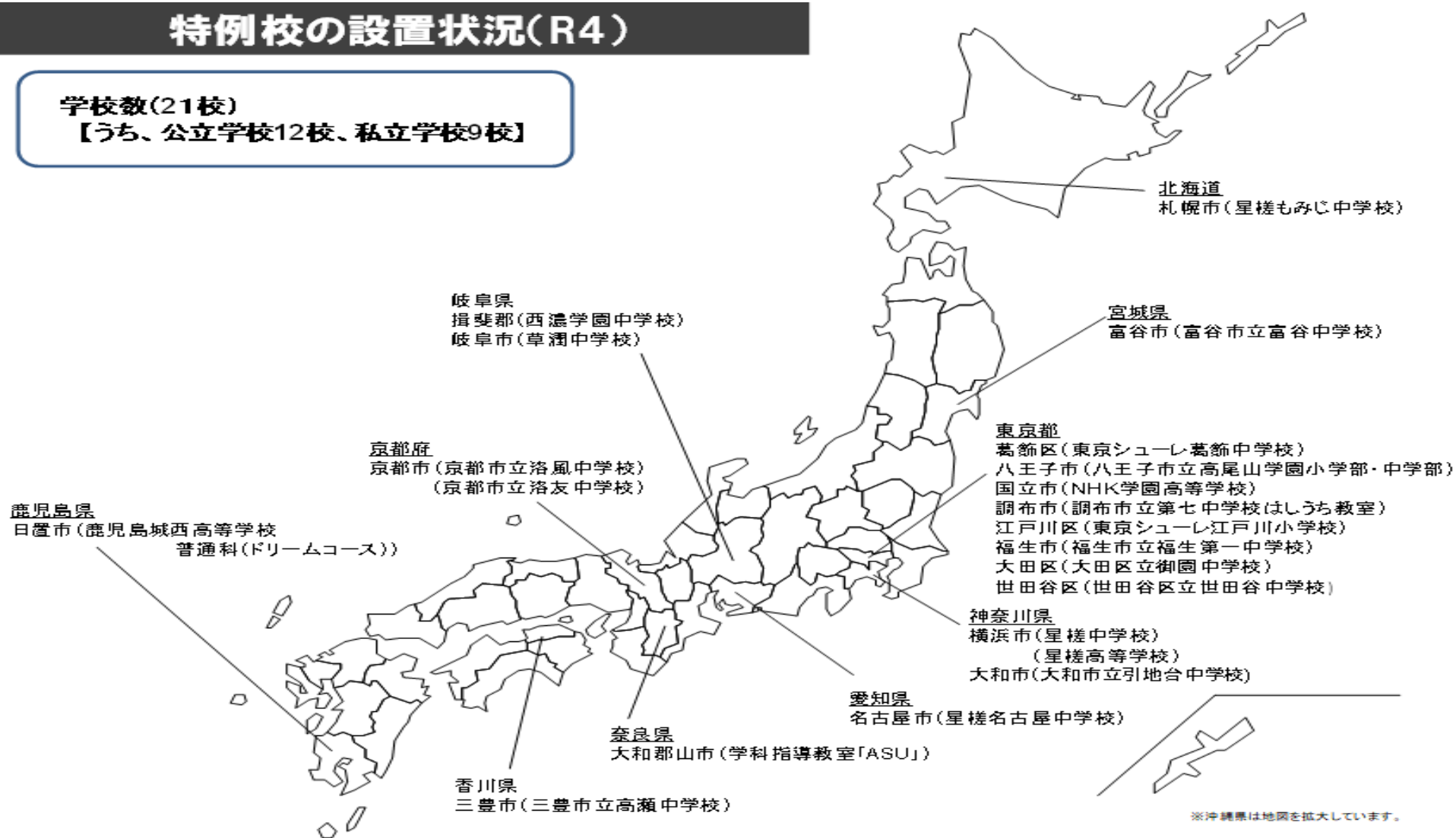
## <不登校特例校とは>

### 全国の不登校特例校

#### 特例校の設置状況(R4)

学校数(21校)

【うち、公立学校12校、私立学校9校】



## 不登校特例校とは？

不登校特例校は、学習指導要領の内容などにとらわれずに、不登校の状態にある児童生徒の実態に配慮した特別な教育課程を編成し、実施している学校です。

文部科学大臣が指定する学校で、正式名称は、「不登校児童生徒を対象とする特別の教育課程を編成して教育を実施する学校」です。

不登校特例校(以下、「特例校」とする)は、平成14年の「構造改革特例区域法」による規制緩和の一環として、平成17年に学校教育法施行規則改正で制度化されました。

また、平成29年に施行された、教育機会確保法(「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」)では、不登校特例校の整備を国や自治体の努力義務としています。「特区」や「機会確保」といった法令名称に使われている言葉にも現れているように、深刻さを増す不登校児童生徒の増加に対応するために法改正や新法が作られる中で、設置が進められた学校であることがわかります。

さらに、教育機会確保法に基づいて国が策定した基本方針では、不登校児童生徒を対象とする特別の教育課程を編成して教育をする学校、つまり特例校の設置を促進することが示されています。